

令和6年度 岩手南部森林管理署・遠野支署合同 採材現地検討会の開催について

令和6年10月2日（水）に、森林環境保全整備事業で契約した（株）山下組の協力により、職員含め75名の参加のもと遠野市小友町袋畑国有林内で広葉樹を主体とした有利採材に向けた採材現地検討会を開催しました。

開催にあたり、遠野支署長から「県内で広葉樹の取引が活発となっている。貴重な広葉樹資源の有利採材、有利販売に向け、皆が同じ認識で品質区分に沿って無駄なく有効活用できるように一緒に勉強したい。」とあいさつがありました。

次に、東北森林管理局青森事務所から、東北森林管理局管内における木材需給動向等、採材の留意事項が話されました。

続いて、県森連伊藤木材販売グループ長から、①合板工場は在庫を抑えながら購入する現状②集成材工場は、減産気味だが合板よりは多く製造している。③集成材は、国産材比率を上げるということで国産製造も増えている。④採材について2mは主に合板工場と新庄市の集成材工場、4mは製材工場、集成材工場など。⑤輸出は、船積みの関係から2mは受けられず、4m材のみの集荷。⑥4mについてはいろいろ逃げ道があるので少しでも4m採材を多くしてほしい。⑦広葉樹は10月以降の採材を願う。夏場に販売できるのは、ナラ、クリ、サクラ、オニグルミ、イタヤなど造材は2.2mを基本とする。⑧オニグルミの36cm上は3m、4m、クリは22cm上の4m直材を積極的に採材など、木材市況について話され、参加者は熱心に聞いていました。

その後、採材検討に移り、参加者を5班に分け、準備した試供木（クリ4本、ウダイカンバ1本、ホオノキ1本、サワグルミ1の計7本）を班ごとに7本の内3本を採材検討することとし、曲がり、節などを見極め、採材箇所テープを巻き付けました。検討に当たっては、参加者の意見の取りまとめに、50分間設けた時間でも3本の採



材が終わらず、時間を15分ほど延長しました。それでも終わらない班には、時間の関係上途中で終わってもらい、各班が発表を行い、それに対して、県森連の講評を受けました。

曲がり、節、腐れをさけて採材していましたが、講評では、小曲りであれば、積極的に2.2m以上の採材をしてほしいとのことであり、根張りについては、元玉とわかるよう残して良いが、長すぎる場合は、切り落とすよう話されました。

すべての講評後、腐れがどこまで入っているか、実際に切り落としながらの説明がありました。



青森事務所副所長から、請負事業体の災害状況と安全対策、有利採材販売に努めてほしいと話され、岩手南部森林管理署長の閉会のあいさつで採材検討会を終了しました。

おわりに、参加者からこの曲りでも一般材で良いのかという声が聞こえ、有意義な採材検討会になったと思っています。

森林技術指導官 尾留川